

一般社団法人日本独文学会第3回総会  
春季研究発表会

2021年6月5日(土)・6日(日)

第1日 午前10時より

第2日 午前10時より

会場 Zoom 開催

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603

Tel./Fax 03-5950-1147

メールフォーム：<http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

## プログラム

第1日6月5日(土)

開会の挨拶(10:00~10:05) 大宮 勸一郎

A会場(Zoomチャンネル1)

総会(10:05~11:30)

A会場(Zoomチャンネル1)

日本独文学会賞授賞式(11:40~12:10)

A会場(Zoomチャンネル1)

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会(12:15~13:15)

A会場(Zoomチャンネル1)

ドイツ語教育部会総会(12:45~13:15)

B会場(Zoomチャンネル2)

シンポジウムI(14:30~17:30)

A会場(Zoomチャンネル1)

「アヴァンギャルドの運動表象」

Darstellungen der Bewegung in der Literatur und Kunst der historischen Avantgarde

司会 小松原 由理

1. 和田忠彦: 未来派の「速さ」をめぐる運動表象について
2. 西岡あかね: 表現主義の運動美学
3. 山口庸子: 表現舞踊における「動き」の概念
4. 柴田隆子: バウハウス舞台芸術工房における「運動表象」の法則化
5. 小松原由理: ダダと表現舞踊の「あいだ」——ゾフィー・トイバーの運動表象

シンポジウムII(14:30~17:30)

B会場(Zoomチャンネル2)

コスモポリタンのナラティヴ

Kosmopolitische Narrative

司会: 菅 利恵

1. 菅 利恵: 「永遠平和」への道—ヴィーラントからカントへ
2. 西尾 宇広: 「世界文学と人間性」あるいは「多様性における統一」—19世紀におけるコスモポリタニズム言説の一類型をめぐって
3. 磯崎 康太郎: 「世界市民主義」とフォンターネ『エフィ・ブリースト』
4. 山室 信高: コスモポリタンの生活形式としてのアメリカ—トーマス・マンのコスモポリタニズム思想とアメリカ亡命
5. 吉田 治代: 亡命が遺したもの—レーヴィットとブロッホのコスモポリタニズム

ポスター発表 (13:00~14:30)

(ポスター発表は途中での出入り自由です)

C会場 (Zoom チャンネル3)

1. Luisa Zeilhofer: MEDITATIONSÜBUNGEN UND IHRE AKZEPTANZ IM UNIVERSITÄREN DEUTSCHUNTERRICHT IN JAPAN

ブース発表 (14:35~16:05)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

C会場 (Zoom チャンネル3)

池谷 尚美・吉村創・鈴木 冴子・境一三: 「生徒の資質・能力を育成するための授業設計とその評価」—逆向き設計を取り入れたパフォーマンス評価の効果 Die Unterrichtsplanung und die Evaluation zur Entwicklung der Kompetenzen und der Fertigkeiten von Deutschlernenden an der Oberschule -Die Effektivität der auf der Rückwärtsplanung basierten Leistungsevaluation-

口頭発表: 語学 (16:10~17:25)

C会場 (Zoom チャンネル3)

司会: 森 芳樹/稲葉 治朗

1. 大倉子南: 1840年から1945年に至るドイツの日常的「文字景観」—書籍・新聞・雑誌におけるドイツ文字とラテン文字の使用実態を探る
2. 覚知 頌春: 低地ドイツ語における疑似並列構文について

第2日6月6日(日)

シンポジウム III (10:00~13:00)

A会場 (Zoom チャンネル 1)

Edition から Dokumentation、そしてその先へ —編集文献学の射程—

Edition, Dokumentation – was kommt danach? Zur Reichweite der Editionsphilologie

司会：明星 聖子

1. 森林 駿介: 史的批判版 (historisch-kritische Ausgabe) とは何か—ジークフリート・シャイベの理論を中心に—
2. 二藤 拓人: フリードリヒ・シュレーゲルの遺稿断章群とその編集・出版の歴史—ヴィンディッシュマン、J・ケルナーから E・ベラーヘ—
3. 田邊 恵子: 書物の「その後の生」とはなにか—ベンヤミン『1900年ごろのベルリンの幼年時代』編集・出版を例に—
3. 矢羽々 崇: ヘルダーリンに見る史的批判版
4. 明星 聖子: 「翻訳可能なテキスト」としての新しいカフカ編集の可能性

口頭発表：ドイツ語教育 (10:00~12:35)

B会場 (Zoom チャンネル 2)

司会：Stefan Keppler-Tasaki / 高田 梓

1. Angela Lipsky: Geschlechtergerechte Sprache: Warum sich auch der DaF-Unterricht in Japan damit beschäftigen sollte
2. 山田 真実: 日本国内におけるドイツ語学習者の Willingness to Communicate: 授業内要因と個人差要因の視点から
3. Joachim Scharloth: Sprachhandlungen modellieren für Deutsch als Fremdsprache. Ergebnisse einer korpuslinguistisch-frequenzbasierten Studie zur Distribution und Verkettung sprechaktindizierender Muster
4. Markus Rude / Will Hall: Sehen und Sprache - die Vorteile binokularen Sehens für den Spracherwerb (Deutsch / Englisch)

口頭発表：文学 I (10:00~12:35)

C会場 (Zoom チャンネル 3)

司会：竹峰 義和 / 葛西 敬之

1. 犬飼 彩乃: クレメンス・J・ゼッツ『ケーファイと文学』からみるポスト真実時代の第四の壁
2. 小崎 肇: 大学生像の変遷 — グリューフイウス『カルデニオとツェリンデ』とアルニム『ハレとエルサレム』から
3. 竹岡 健一: 『ミツバチ・マーヤの冒険』における「ミツバチとスズメバチの戦い」について — 戦争とベストセラーのかかわりに関する一考察
4. André Reichart: Literarische Wahrheit zwischen Fakt und Fiktion. Ein Bestimmungsversuch.

閉会の挨拶 (13:05~13:10)

森芳樹

A会場 (Zoom チャンネル 1)

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。